

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 大学の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①: 大学の目的(学部、学科又は課程等の目的を含む。)が、学則等に明確に定められ、その目的が、学校教育法第 83 条に規定された、大学一般に求められる目的に適合しているか。

【観点到る状況】

本学は、山梨大学学則第 1 条において、学校教育法第 83 条の主旨に基づき教育研究上の目的を定めている(資料 1-1-①-1)。この目的を踏まえ、教育研究活動を行うに当たっての基本的な方針や養成する人材像を含めた教育・研究上の理念・目標を、山梨大学憲章として制定している(資料 1-1-①-2)。

本学は、教育研究上の基本組織として 4 学部を設置し、大学設置基準第 2 条を踏まえ、各学部の特性に応じた教育研究、人材養成に関する理念・目的等を定めている(資料 1-1-①-3)。

また、山梨大学の理念と目標、学則の目的、各学部の理念・目的を具体的に実現するために、中期目標・中期計画において「地域社会の発展に寄与する人材を養成する」ことを目標とし、目標を達成するためにとるべき措置として「地域社会の実情・ニーズに応じて、養成する人材像を明確にし、地域社会と連携し人材を養成する」を掲げ(資料 1-1-①-4)、平成 24 年度には、教育人間科学部、工学部を改組するとともに、生命環境学部を新設した。

資料 1-1-①-1 山梨大学学則(抜粋)

○山梨大学学則

(目的及び使命)

第 1 条 山梨大学(以下「本学」という。)は、学術文化を担う開かれた教育研究機関として、それぞれの専門領域での教育研究を推進するとともに、広く諸学の融合による学際領域を創造することを目的とし、豊かな教養と専門知識・技術を備え、倫理性、独創性に富み、自主独立の精神を尊ぶ人材を育成することを使命とする。教育と研究はそのいずれかに偏ることなく、大学全体として相互の調和を図る。

本学は地域社会との連携によって地域の知の中核となり、その知の集積を地域をこえて世界に発信し、国際社会に貢献する。

(出典:山梨大学学則)

資料 1-1-①-2 山梨大学憲章

○山梨大学憲章

山梨大学は、個人の尊厳を重んじ、真理の追究と学問の自由を大切にし、多様な文化や価値観を積極的に受け入れます。

また、社会の要求に応えつつ、広い知識と深い専門性を追求し、地域の中核となり、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人材を養成する場となることを表明します。

この憲章に基づいて、山梨大学の役員・職員・学生は、志を同じくするすべての人々と協力し、以下の目標の達成を目指します。

【未来世代にも配慮した教育研究】

山梨大学は、現代世代だけでなく、未来世代の福祉と環境にも配慮した視点に基づいて、教育研究を行います。

【諸学の融合の推進】

山梨大学は、専門領域を超えて協力し合い、諸学の柔軟な融合による新しい学問分野を創設し、さまざまな課題の解決に努めます。

【世界的研究拠点の形成】

山梨大学は、国際的視野を持って、問題の発見と解決に取り組み、世界の人材が集う研究拠点を構築し、学術及び科学技術の発展に貢献します。

【国際社会で活躍する人材の養成】

山梨大学は、市民としての倫理性と自律性を身に付け、専門性をもって、国際社会で活躍できる人材の養成に努めます。

【地域から世界へ】

山梨大学は、地域社会が抱える課題を取り上げ、その解決に地域と協同してあたり、得られた成果を世界に向けて発信します。

【現実社会への還元】

山梨大学は、教育研究の成果が社会に応用され、役立つよう、社会に積極的に還元することに努めます。

【絶えざる改革】

山梨大学は、自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、絶えざる改革を推進します。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ynsprofile/index.php?content_id=1

(出典:山梨大学憲章)

資料1-1-①-3 各学部、学科、課程の理念・目的等

○教育人間科学部

[理念・目的]

人間と文化・社会に関する幅広い視野と教養をもち、人間の生涯発達と学習についての専門的な知識を備え、豊かな人間生活の構築に寄与する人材養成のための教育・研究を目的にしています。

[キャッチフレーズ]

豊かな人間性と教育文化

[教育目標]

人間の生涯発達を視野に収め、教育に対する情熱と課題を解決する高い実践力を備え、豊かな人間生活の構築に寄与する教育人の養成を目指します。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ynsprofile/index.php?content_id=29

◆学校教育課程

《子どもの発達と教育の道筋を学び、新しい時代の教育文化と学校教育を担い切り拓く》

人間の生涯発達・生涯学習のなかで学校教育の課題を捉え、教育文化・教科の広がりを見通すことのできる豊かな教養を基盤に、

- ①子どもの発達と教育の過程を長期スパンで把握するとともに、個々の内面と可能性を深く洞察することができ、
- ②学校教育の特定の教科、あるいは幼小連携、特別支援、学校運営といった特定の課題に関して、得意分野を持ち、
- ③教室の内外における実践活動を計画・実行し、その結果を評価・省察して、次の教育活動に活かすことのできる、実践的指導力の高い教育者の育成を目指します。(出典:2014 大学案内 P25)

◆生涯学習課程

《いつでも・どこでも・だれでも学べる生涯学習社会の支援者として、「生涯にわたり学んでいくこと」を真剣に考える》

個人や知識の特性に柔軟に対応できる理論的・実践的能力を養い、来るべき生涯学習社会において、推進的・指導的役割を担う人材を育成します。(出典:2014 大学案内 P28)

教育人間科学部 HP: <http://www.edu.yamanashi.ac.jp/>

○医学部

[理念・目的]

深い人間愛と広い視野を持ち、医の倫理を身に付け、科学的根拠に基づいた医学的知識、技術を備え、地域医療や国際医療に貢献できる医療人や国際的に活躍できる優れた研究者を養成する教育・研究を行います。

[キャッチフレーズ]

国民の健康を支える医療人育成

[教育目標]

病める人の苦痛を自らの苦痛と感ずることができ、生涯にわたって医学的知識、技術の修得に努め、地域社会・国際社会の保健医療・福祉に貢献する意欲を持った人材及び疾患の原因や治療法を科学的に追究し、国際的に活躍できる研究者になろうとする意欲を持った人材の育成を目指しています。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ynsprofile/index.php?content_id=30

◆医学科

《現代医療・医学を担う、優れた臨床医・医学研究者の養成を目指す》

新しい時代を担う医師及び医学研究者の養成を目指し、幅広い知識と高度な技能の獲得とともに、人格の涵養にも重点を置いた教育プログラムを実施しています。

目覚ましい速度で発展する医学に対し、深い人間愛と命の尊厳を基本に置いた創造と実践による教育・研究を行い、21世紀の医療を担う優れた人材を育成します。(出典:2014 大学案内 P35)

◆看護学科

《深い人間愛と広い視野を持つ、人間性豊かな看護専門職を育成》

社会的ニーズを的確に捉え、急速に進展する保健・医療・福祉の動向にも目を向けつつ、創造と実践による教育・研究を行い、質の高い看護サービスを提供できる優れた看護専門職と、将来指導的立場で活躍できる人材を育成します。

(出典:2014 大学案内 P37)

医学部 HP: <http://www.med.yamanashi.ac.jp/>

○工学部

[理念・目的]

広い教養と深い専門知識を身につけ、豊かな想像力と優れた判断力を備えた、将来を担う工学系技術者を養成する教育・研究を行います。

[キャッチフレーズ]

未来世代を思いやるエンジニアリング教育

[教育目標]

基礎的・専門的学力、論理的な表現力やコミュニケーション能力を修得するとともに、工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、

及び技術者が社会に負っている責任を理解し、科学的知見と技術を総合して社会的課題を解決する能力、すなわちエンジニアリングデザイン能力を身につけた人材を養成します。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ymsprofile/index.php?content_id=31

◆機械工学科

《動力エネルギー、航空宇宙、自動車、医療・福祉などの先端技術とスキルを学び、次世代の『ものづくり』にチャレンジ!》

機械工学の基盤知識やものづくり技術を学ぶ多様な科目に加え、航空宇宙、自動車、医療・福祉、動力エネルギー、ロボット等の先端技術を修得する教育・研究の場を提供します。これにより、1) 大学で学んだ機械工学の知識を多様なものづくりの場で活用でき、2) 社会が求める課題を感知し、チームを組織して計画的にそれを解決でき、さらに、3) 国際的な視野で情報を収集・評価し、問題解決のためにそれを応用できる能力を備えた次世代のものづくり技術者を育成します。(出典:2014 大学案内 P45)

◆電気電子工学科

《太陽電池、電子ペーパー、光インターネット、電気自動車、量子コンピュータ…未来につながる新しい電子材料・素子・機器をデザインする》

クリーンな発電技術として注目されている太陽光発電、スマートフォンやタブレットなどの身近なIT機器に組み込まれている大規模集積回路、インターネットのような全世界をまたぐ高速・大容量通信システムなど、電気電子工学が生み出す様々な最先端の材料、素子、機器は人々の生活を便利で快適にするだけでなく、時には未来のあり方を大きく変える力を持っています。

電子材料から情報通信まで—電気電子工学科では1～3年次に電気電子工学分野の幅広い知識・技術を身につけ、4年次には最先端の研究開発に挑戦して実践力を養います。(出典:2014 大学案内 P46)

◆コンピュータ理工学科

《現代社会の中核を支える情報科学技術を学び、次世代情報化社会の担い手を目指す》

次世代 WEB サービスの設計開発や最先端マルチメディアコンテンツの製作、情報ネットワークシステムの開発・運用などができるようになります。

また、感性情報や高次知性、組込みシステムなど次世代の高度情報化社会を支える科学と技術を学ぶことができます。本学科では、情報科学技術を駆使して、未来の情報化社会の創造に挑戦できる人材を育成することを目標としています。

(出典:2014 大学案内 P47)

◆情報メカトロニクス工学科

《機械、電気、情報という複数の学問領域を横断的に学び、技術統合されたシステム(ロボットなど)を構築できる人材を育成》

産業・民生用ロボットなどの電子機械製品では、センサーやモーターからなる部品をソフトウェアで制御して高度な機能を実現しています。これらの設計・開発には、機械の知識(構造の力学的理解)、電気(センサー・回路の理解)、情報の知識(制御ソフトウェアの理解)が不可欠です。この製品の開発に携わる技術者、すなわち機械・電気・情報の融合知識・技術である情報メカトロニクス学を利用・活用できる技術者を養成することが情報メカトロニクス工学科の目的です。(出典:2014 大学案内 P48)

◆土木環境工学科

《自然環境と調和した災害に強く、安全で快適なまちづくりを目指して》

環境と調和した社会基盤の整備・管理、災害に強い安全な国・地域づくり、快適で環境に配慮したまちづくり、生活環境の充実、自然環境の保全など、持続可能な社会を網羅的・意欲的に構築できるエンジニアを養成します。(出典:2014 大学案内 P49)

◆応用化学科

《100年後の地球のために・・・化学の力で未来を創る!》

応用化学は、有機・高分子機能材料・セラミックス・半導体材料などの新素材や低環境負荷材料の開発、環境計測技術、クリーンエネルギー関連分野、医療・福祉分野などにおいて重要な役割を担っています。本学科では、低環境負荷社会を実現するため、これらの分野において専門知識と問題解決力を備え、研究・開発の場で活躍できる人材を育成します(出典:2014 大学案内 P50)

◆先端材料理工学科

《さらにその先へ、よりよい世界へ夢の世界をカタチにする》

材料科学は、原子・分子レベルの操作で新材料を創り、新たな機能を生み出すことを目的とした、物理学・化学の融合領域です。これなしに希少資源の枯渇、消費エネルギーの増大や環境破壊といった、今私たちが直面する地球規模の問題を解決できません。

先端材料理工学科は、次世代を担う幅広い知識と能力を備えた材料技術者・科学者を養成します(出典:2014 大学案内 P51)

工学部 HP: <http://www.eng.yamanashi.ac.jp/>

○生命環境学部

[理念・目的]

自然と社会の共生科学に基づき、広い視野と深い専門知識を身につけ、持続可能な地域社会の繁栄を担う人材を養成する教育・研究を行います。

[キャッチフレーズ]

自然と社会の共生科学の創生

[教育目標]

生命科学・食物生産・環境科学・社会科学に関する実践教育により、広範な知識を統合し、問題を発見し解決する能力を身につけ、自然と社会の共生科学の観点から持続可能で豊かな地域社会を実現できる人材の養成を目指しています。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ymsprofile/index.php?content_id=183

◆生命工学科

《最先端のバイオテクノロジーで人類の未来を切り拓く》

生命工学は生物が持つ多様な機能を解明し、それらの応用を目指す学問分野です。生命工学が生み出す先端のバイオテクノロジーは、様々な分野に大きな変革をもたらしています。

生命工学科では、バイオテクノロジーによって解決すべき課題を自らの力で見だし、それらの課題を高い創造性をもって解決できる能力を備えた研究者、技術者の養成を目指しています。(出典:2014 大学案内 P59)

◆**地域食物科学科**

《食べることは、生きること。美味しさや豊かさを探求し、人類が直面する食料問題の解決を目指す!》

食物科学や農学に関する専門知識・技術を基礎として、果樹・野菜生産や食品製造、資源・環境などの多角的な視点から、人類が直面する食料問題に取り組める人材を養成します

「**ワイン科学特別コース**」

教育モデルとして「ワイン科学特別コース」を設置し、ブドウ栽培・ワイン製造を専門に研究する国内唯一の研究機関である「ワイン科学研究センター」の歴史と実績を活かして、専門的なワイン製造技術を教育し、ワイン製造業界で活躍できる人材を養成します。(出典:2014 大学案内 P60)

◆**環境科学科**

《**地球規模での環境問題に向き合い、持続可能な社会の形成に貢献できる人材を養成**》

生物資源の持続的な生産を支える土壌、水、大気の保全や生物生産の現場と周囲の生態系との調和を通して、自然と共生した豊かで持続可能な社会の形成に貢献できる人材を養成します。(出典:2014 大学案内 P61)

◆**地域社会システム学科**

《**徹底した少人数教育とマンツーマン指導で経済・経営・政治・法律を徹底的に学ぶ文系学科**》

「持続可能な社会の繁栄という観点から新たな発展モデルの確立を目指し、社会経営に関わる理論的知識と実践力をバランスよく身につけた人材を養成すること」を基本理念としています。(出典:2014 大学案内 P62)

生命環境学部 HP: <http://www.les.yamanashi.ac.jp/>

(出典:2014 大学案内 P25~P62)

資料 1-1-①-4 第 2 期中期計画期間における大学の基本目標及び重点目標(抜粋)

○**山梨大学の基本的な目標**

山梨大学(以下「本学」という。)は、「地域の中核、世界の人材」をキャッチ・フレーズに、山梨大学憲章に掲げる以下の目標の達成を目指す。

〔未来世代にも配慮した教育研究〕

現代世代だけでなく、未来世代の福祉と環境にも配慮した視点に基づいて、教育研究を行う。

〔諸学の融合の推進〕

専門領域を超えて協力し合い、諸学の柔軟な融合による新しい学問分野を創造し、さまざまな課題の解決に努める。

〔世界的研究拠点の形成〕

国際的視野を持って、問題の発見と解決に取り組み、世界の人材が集う研究拠点を構築し、学術及び科学技術の発展に貢献する。

〔国際社会で活躍する人材の養成〕

市民としての倫理性と自律性を身に付け、専門性をもって、国際社会で活躍できる人材の養成に努める。

〔地域から世界へ〕

地域社会が抱える課題を取り上げ、その解決に地域と協同してあたり、得られた成果を世界に向けて発信する。

〔現実社会への還元〕

教育研究の成果が社会に応用され、役立つよう、社会に積極的に還元することに努める。

〔絶えざる改革〕

自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、絶えざる改革を推進する。

○**第二期中期目標期間の重点目標**

本学は、「地域の知の拠点」として、地域の産業・文化・教育・医療の中核を担うことのできる、高い知的能力と道德意識を持った高度専門職業人の養成を重要な使命とする。この使命を達成するために、これまでの研究成果を基に高度な研究を推進するとともに、先端領域の世界的研究拠点を形成し、これらから得られた成果を広く社会に提供する。また、これら高度な研究を推進する過程で、優れた課題探求能力と応用力を持った国際的に活躍できる人材を養成する。

《**中期目標**》

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

・ 地域社会の発展に寄与する人材を養成する。

《**中期計画**》

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

11. 地域社会の実情・ニーズに応じて、養成する人材像を明確にし、地域社会と連携し人材を養成する。

中期計画 URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ymsprofile/index.php?content_id=49

(出典: 国立大学法人山梨大学第 2 期中期目標・中期計画一覧表 P1~3)

【分析結果とその根拠理由】

山梨大学学則第1条において、教育研究上の目的を定めており、教育研究上における大学一般に求められる目的に適合している。また、大学設置基準第2条を踏まえ、各学部の特性に応じた教育研究、人材の養成に関する目的等を定めており、これらは各学部の特性に応じた内容となっている。

以上のことから、大学の目的が学則等に明確に定められ、その目的が学校教育法第83条に制定された大学一般に求められる目的に合致していると判断する。

観点1-1-②： 大学院を有する大学においては、大学院の目的（研究科又は専攻等の目的を含む。）が、学則等に明確に定められ、その目的が、学校教育法第99条に規定された、大学院一般に求められる目的に適合しているか。

【観点に係る状況】

本学は、山梨大学大学院学則第1条において学校教育法第99条の主旨に基づき教育研究上の目的を定めている（資料1-1-②-1）。この目的を踏まえ、教育研究活動を行うに当たっての基本的な方針や養成する人材像を含めた教育・研究上の理念・目標を、山梨大学憲章として制定している。（前掲資料1-1-①-2）。

本学は、教育研究上の基本組織として教育学研究科、医学工学総合教育部を設置し、大学院設置基準第1条の2を踏まえ、研究科、教育部等の特性に応じた教育研究、人材の養成に関する理念・目的を定めている（資料1-1-②-2）。

また、山梨大学の理念と目標、学則、各学部の理念・目的を具体的に実現するために、中期目標・中期計画において第2期中期目標期間における本学の基本的な目標を定めるとともに、重点目標を記載している（前掲資料1-1-①-4）。

資料1-1-②-1 山梨大学大学院学則(抜粋)

○山梨大学大学院学則

〔目的及び使命〕

第1条 山梨大学大学院(以下「大学院」という。)は、学術の理論及びその応用を教授研究することを目的とし、学術研究を創造的に推進する優れた研究者並びに高度で専門的な知識と能力を有する職業人を育成することを使命とする。

2 教育学研究科修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

3 医学工学総合教育部博士課程は、研究者として自立して研究活動を行うに必要な深い学識と高度な研究能力及び豊かな人間性を備えた優れた研究者の育成を目的とする。

4 医学工学総合教育部修士課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、専攻分野における理論と応用の研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

5 教育学研究科教職大学院の課程は、地域の学校の課題に即した学校改善・授業改善の構想力・実践力を育成するとともに、教育に関する高度の実践的専門性と教育実践を具体的な場で創成しリードする力を育成することを目的とする。

(出典:山梨大学大学院学則)

資料1-1-②-2 研究科、教育部、専攻の理念・目的

○教育学研究科

〔理念・目的〕

現代社会が直面する課題の解決に応用でき、また、これら応用研究の基礎となる学術研究を、国際的視野を持って創造的に推進する優れた研究者並びに高度で専門的な知識と能力を有する職業人を養成する教育・研究を行います。

〔教育目標〕

教育実践に関わる学術諸分野と一般社会における専門的職業人の養成を目指しています。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ynsprofile/index.php?content_id=32

【修士課程】

◆教育支援科学専攻

一人ひとりの子どもたちの教育を受ける権利を保障しその成長発達のニーズに応え支援する教育実践・教育制度を探求し新たな教育実践を構想する力の基盤となる、教育支援科学的調査研究法とそれを駆使した知見の開発の進展と教育を目的としている。

URL: http://www.edu.yamanashi.ac.jp/modules/kenkyu/index.php?content_id=7

◆教科教育専攻

教科教育専攻は、教科の教育内容に関する専門的知識を深め教材とそのシーケンスおよび授業法について開発する力を育成するために、文化特性に応じて、各文化領域(言語文化、社会文化、科学文化、芸術文化、身体文化)における教育内容の核を構成する本質的知見および教材研究・授業法に関する基礎研究の進展とその教育を目的としている。

URL: http://www.edu.yamanashi.ac.jp/modules/kenkyu/index.php?content_id=8

【教職大学の課程】

◆教育実践創成専攻

教育実践創成専攻(教職大学院の課程)は、地域の学校の課題に即した学校改善・授業改善の構想力・実践力を育成するとともに、教育に関する高度の実践的専門性と教育実践を具体的な場でリードする力の育成を目的としている。

URL: http://www.edu.yamanashi.ac.jp/modules/kenkyu/index.php?content_id=18

○医学工学総合教育部

[理念・目的]

現代社会が直面する課題の解決に応用でき、また、これら応用研究の基礎となる学術研究を、国際的視野を持って創造的に推進する優れた研究者並びに高度で専門的な知識と能力を有する職業人を養成する教育・研究を行います。

【博士課程】

[教育目標]

研究者もしくは高度な専門技術者として自立して研究活動を行うに必要な深い学識と高度な研究能力並びに高い倫理観を備えた優れた研究者もしくは高度な専門技術者の育成を目指しています。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ymsprofile/index.php?content_id=34

《医学領域》

◆先進医療科学専攻

《治療法の開発、先端治療の臨床応用：明日の医療を担う高度な教育研究を展開》

人体諸器官の機能発現機構とその内分泌、脳神経系による調節機構、悪性腫瘍、感染症をはじめとする種々の疾患の診断や治療技術・医療機器開発に関わる教育研究等を推進する。これらの教育研究を通じて、先進医学研究のフロンティアを切り開く人材を養成することを目的とします。

URL: <http://www.med.yamanashi.ac.jp/daigakuin/igaku/index.html>

◆生体制御学専攻

《生体の情報処理ならびに調節機構を解明し、様々な病態を学際的に理解する》

現代生命科学研究の共通の手法である形態学、分子細胞生物学、生化学、分子遺伝学などの手法を駆使して生体の様々な情報処理・制御機構の解析を行い、同時にそれが障害された際に見られる病態の解明を目標とする。

URL: <http://www.med.yamanashi.ac.jp/daigakuin/igaku/index.html>

《医学工学融合領域》

◆ヒューマンヘルスケア学専攻

《人間を科学的に理解し、健康生活の維持、促進を支援》

人間を身体・心理・社会的側面から包括的に捉え、小児・青年・成人・高齢者の健康問題からの回復および健康生活の維持・促進を支援することを目的とするヒューマンヘルスケア学にふさわしい実践方法、研究方法、および教育活動の開発・構築に努め、看護学の発展に寄与する人材の育成を理念としています。

URL: <http://www.med.yamanashi.ac.jp/daigakuin/igakukougaku/index.html>

◆人間環境医工学専攻

(生体環境学コース)

《医学・工学の学問基盤に相互の知を融合させた先端的教育研究で、現代社会の課題に挑む》

生命科学に対する深い造詣と学際的な洞察力を養うことができ、将来大学や研究所などの教育研究機関で、基礎研究や臨床医学研究を遂行するリーダーとして活躍することができます。本コースでは医学、工学の教育のみならず、倫理学・哲学、心理学等の人文・社会科学領域の教育も行っています。人間と環境の関わりについて総合的な洞察力を持ち、かつ社会的に責任ある行動を取ることができる人材を育成します。

URL: <http://www.med.yamanashi.ac.jp/daigakuin/igakukougaku/index.html>

(生命情報システム学コース)

《生命現象と多様な情報をシステムティックに解析》

生命工学・知能情報科学・先進医用工学を教育研究の柱として、生命現象に関わる多様な情報をシステムティックに解析し、幅広い生命および情報科学分野に貢献できる研究者及び高度技術者の養成を行います。

URL: <http://www.eng.yamanashi.ac.jp/graduate/g-human/>

《工学領域》

◆機能材料システム工学専攻

《新素材、高機能物質、各種先端ナノデバイスを開発し、新規産業分野の開拓を目指す》

「物質設計化学分野」、「電子機能開発分野」および「機能創造工学分野」の3分野で構成され、科学技術立国を目指す我が国の国家的研究課題の中核をなす新素材および高機能物質の創製開発、情報化社会のさらなる発展に資する各種先端ナノデバイスの開発研究などを主たる対象とした総合的な教育研究のためのカリキュラムを配置し、一連の学術的な基盤を教授するとともに、その先端的知識と技術を新規産業分野の開拓に発展させることのできる創造的人間を育成します。

URL:<http://www.eng.yamanashi.ac.jp/graduate/g-material/>

◆情報機能システム工学専攻

《生産からビジネスまで、幅広いシステムソリューションの研究と開発》

ソフトウェア、情報通信ネットワーク、生産システム、人間-機械システムを4つの柱として位置付け、それらを基礎としたものづくりのための生産システムをはじめさまざまなビジネスシステムまで、幅広いシステムソリューションを提供するための教育研究を行い、国際的に通用する基礎学力をそなえ、ものづくりの新規技術や情報・通信技術を駆使して、さまざまな生産システムやビジネスシステムを、分析、設計、構築、運用、評価できるとともに、システム開発プロジェクトをリードできる人材を養成します。

URL: <http://www.eng.yamanashi.ac.jp/graduate/g-information/>

◆環境社会創生工学専攻

《自然と調和し、安全で持続可能な共生社会の実現に向け、各種技術を開発》

従来の工学技術の範疇にとどまらず、より広範な社会的分野への応用が可能な理論的・方法的な教育と研究により、自然と調和し安全かつ持続可能な社会を構築する科学的基礎を確立することを目的としています。

URL: <http://www.eng.yamanashi.ac.jp/graduate/g-enviro/>

【修士課程】

[教育目標]

専門知識及び開発能力、問題発見・解決能力、国際的コミュニケーション能力を修得し、専門技術者・研究者として社会に貢献できる人材の養成を目指します。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ymsprofile/index.php?content_id=33

《医学領域》

◆医学科専攻

《高度先端技術と学際的知識を備えた先進的な専門家を養成》

将来の生命科学研究を担う研究者の育成ばかりではなく、同時に生命科学、社会医学研究の成果を、医療機関の現場、保健医療行政および健康教育分野において実践できる高度の先端技術と学際的知識を持つ専門家の育成を目的としています。

URL: <http://www.med.yamanashi.ac.jp/daigakuin/ikagaku/index.html>

◆看護学専攻

《質の高い看護サービスを提供できる看護専門職を育成》

質の高い看護サービスを提供するために求められる科学的知識と技術を有する看護専門職の育成を目的としています。

URL: <http://www.med.yamanashi.ac.jp/daigakuin/kangogaku/index.html>

◆機械システム工学専攻

《豊かな想像力と幅広い応用力を身につけたグローバルスタンダードな技術者を養成》

エネルギーシステム工学、創形創質工学、集積化システム工学、感性情報工学の4講座で構成されており、それぞれ、機械工学と精密工学に該当する技術分野を基礎に、新素材、ナノテクノロジー、エネルギーの有効利用、電子工学や情報工学、福祉工学を結びつけたメカトロニクスなどに関する教育研究を幅広く行っています。

本専攻がめざすのは、急速な科学技術の進展と社会の新しいニーズに応え得る技術者・研究者の育成です。

URL:<http://www.eng.yamanashi.ac.jp/graduate/g-kikai/>

◆電気電子システム工学専攻

《電気電子技術と境界領域技術を包括した高度な研究教育を推進》

人類と地球環境との調和を常に思考しながら今後の技術革新に必要な電気電子工学の先端技術と境界領域技術を理解し、新しい時代に対応できる広範な能力を有する人材の育成を図ることを理念としています。

URL: <http://www.eng.yamanashi.ac.jp/graduate/g-denki/>

◆コンピュータ・メディア工学専攻

《次世代情報化社会の工学的技術基盤を担う高度な情報専門技術者》

情報技術の基盤となるコンピュータに関連する技術の基礎領域の深化と応用領域の拡充を教育研究目的としています。すなわち、既存の学問分野にとらわれない斬新な考え方や問題解決能力、音声・画像・動画などのマルチメディア情報技術を積極的に採り入れた新しい産業を創製するための基盤となる広い意味の情報システムを設計・製作・分析できる能力を備えた柔軟性・創造性・応用力を有した高度な情報専門技術者を育成することを目的としています。

URL: <http://www.eng.yamanashi.ac.jp/graduate/g-computer/>

◆土木環境工学専攻

《環境と調和した、安全で持続可能な社会基盤の構築を目指して》

人間・自然・人工物を社会基盤の基本要素として捉え、人工物・人間活動を自然と調和させるための、物理的、化学、生物学的技術ならびにマネジメント技術の発展と応用に関する研究教育を行い、新しい時代の要請に応える社会基盤の創造を推進する人材を養成します。

URL: <http://www.eng.yamanashi.ac.jp/graduate/g-doboku/>

◆応用化学専攻

《高機能物質の創製、クリーンエネルギーの開発》

物質科学と設計化学の二大講座で構成されており、物質、エネルギーおよび環境をキーワードとした最先端の雅楽に関する研究を行うと共に、新素材・高機能物質の創製、クリーンエネルギーの開発といった、独創的かつ先端的な学術研究を通して、専門分野における理論と研究に関する基礎知識を習得し、高度専門技術者に求められる的確な問題解決能力と応用力を養い、産業の持続的発展と人類の福祉に貢献できる発想力の豊かな人材を育成しています。

<p>URL: http://www.eng.yamanashi.ac.jp/graduate/g-kagaku/</p> <p>◆生命工学専攻 《バイオテクノロジーとワイン科学のスペシャリストを育成する》 生命機能工学とワイン総合科学の2コースで構成されており、生命機能、食品およびワインに関する高度な知識と最先端の技術を備えた人材を育成します。</p> <p>URL: http://www.eng.yamanashi.ac.jp/graduate/g-seimei/</p> <p>◆持続社会形成専攻 《持続可能な社会の構築に寄与する実践的な人材育成》 人類が21世紀をよりよく生きるためには、様々な学問領域・技術の共同作業を積み重ねることによって、人間の社会的・経済的行為が引き起こす地球環境への負荷を軽減し、物質循環を基本とする循環型社会を構築する必要があります。 本専攻では、個々の学生が志す職業イメージにマッチした高度専門教育を行うとともに、それを持続可能な社会の構築に結びつけるための洞察力と先見性を涵養する。</p> <p>URL: http://www.eng.yamanashi.ac.jp/graduate/g-shakai/</p> <p>◆人間システム工学専攻 《工学技術と医学を融合し、人間・環境・社会にその視点に向け問題解決を図る》 工学技術と医学を融合し、人間・環境・社会にその視点に向け問題解決を図り、工学を社会と人間にとってより良いものにするのできる総合的な知識と技術を持った人材の育成を目指す。</p> <p>URL: http://www.eng.yamanashi.ac.jp/graduate/g-ningen/</p>

【分析結果とその根拠理由】

山梨大学大学院学則第1条において、教育研究上の目的を定めており、教育研究上における大学院一般に求められる目的に適合している。また、大学院設置基準第1条の2を踏まえ、研究科、教育部の特性に応じた教育研究、人材の養成に関する目的等を定めており、これらは研究科、教育部等の特性に応じた内容となっている。

以上のことから、大学院の目的が学則等に明確に定められ、その目的が、学校教育法第99条に規定された大学院一般に求められる目的に合致していると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

・第2期中期目標・中期計画において、「地域社会の発展に寄与する人材を養成する」ことを目標とし、目標を達成するためにとるべき措置として「地域社会の実情・ニーズに応じて、養成する人材像を明確にし、地域社会と連携し人材を養成する」を掲げ、山梨大学学則、山梨大学憲章及び山梨大学が求める人、養成する人材としての大学の理念・目的を果たすため、他大学に先駆けて、教員養成機能の強化、工学系グローバル人材の育成のために教育人間科学部、工学部を改組するとともに、地域の持続的繁栄に貢献できる農学系、社会科学系人材を養成する生命環境学部を新設するなど大学改革に取り組んでいる。

【改善を要する点】

該当なし